令和４年度　学校評価（総括評価）

徳島県立池田支援学校

教育目標	重点目標	活動計画と評価指標		評価		学校関係者の意見	次年度に残された課題
		活動計画	評価指標	活動計画の実施状況と評価指標の達成度	総合評価（評定）		
１ 児童生徒一人一人に応じた学習や生活する力の向上	**「小･中･高がつながる」学びの推進** 【小学部】 (1)朝の会，帰りの会において自分の役割を果たしたり思いを表現したりできる力を育てる。	(1)-1各学級ごとに活動内容を設定し個人目標（役割と意思表現の２項目）を立てる。目標は，児童の実態に応じて３段階の評価点方式とする。 (1)-2５月に目標の共有会，７月に中間評価，１月に最終評価を行う。評価内容の共有会を８月と２月に実施する。ペア学級を決めておき年間を通して相談と評価を行う。	(1)-１対象児童全員について２つの項目についてレベルやパターンを設定した目標を立てることができる。 (1)-2中間評価および最終評価において８割以上の児童の評価点が向上する。	(1)-1児童全員について，２つの項目の目標を設定して取り組むことができた。児童によっては，評価点が２段階で取り組んだ。 (1)-2目標および評価共有会を計画通り実施することができた。最終評価において，役割は66P ／72P，意思表現は64P ／68P で評価指標を達成した。評価共有会でステップの組み方や達成状況を話し合うことで重点目標の指導方法を再確認し，次年度以降の指導に生かすことにつながった。	A	・学部の教育活動の評価に当たっては，具体的な評価指標や何を評価するのか焦点を定めて行うようにした方がよい。 ・小学部のように追跡的に評価を行う手法を中学部や高等部も導入してほしい。 ・「自尊感情」や「協力する」などの内容と「地域との連携・地域貢献活動」との関連付けについて具体的な指標の設定をした方がよい。 ・コロナ後を見据えた積極的な地域に出る教育活動の展開を期待したい。 ・キャリア・パスポートの活用を今後も推進してほしい。	・今後も教育目標の達成のための具体的な評価指標の設定や評価方法をデータ化するなどして，具体的な成果や課題が把握し，分析できる設定を行う。 ・「自分ノート」や「キャリア・パスポート」の効果的な活用について，新しい知見を取り入れ，発展的・充実した取組を図る。
	【中学部】 (2)協働学習や体験活動を通して，自尊感情を育む。	(2)-1協働学習や体験活動の機会を年間10回以上設定する。 (2)-2「やってみよう」「作業学習」「職業」「生活単元学習」の年間指導計画の中に協働学習，体験活動を位置付け，事前･事後指導，活動のまとめ，発表の機会を設ける。 (2)-3事前・事後に，生徒を対象にしたアンケート評価を行う。評価に当たっては，先行研究（東京都自尊感情測定尺度：2008～2012）の自己･他者評価シートを生徒の実態に合わせて実施する。	(2)-1協働学習や体験活動の機会を年間10回以上実施するとともに全生徒が２回以上参加する。 (2)-2活動のまとめを自分ノート（キャリアパスポート)に記録し，前・後期1回以上発表することができる。 (2)-3事後の生徒・教員による自己･他者評価において，事前評価よりも上回る回答を得る。	(2)-1協働学習，体験活動の機会を学級単位，学習グループ単位，学部全員で10回以上実施した，全員の生徒が，自分の役割を果たして活動に参加することができた。（学級旗作り，夏まつり，表現会，笑いヨガ，お楽しみ会等） (2)-2それぞれの方法で「自分ノート」（キャリアパスポート）にまとめ，前・後期それぞれ1回以上発表することができた。 (2)-3アンケートでは，７名の生徒が自己評価シートを使用して評価を行った。５名の生徒については，自尊感情の向上と見られる回答が得られた。	A		
	【高等部】 (3)地域の方々との貢献活動や教員との対話を通して自尊感情を育む。	(3)　地域貢献活動，自分ノート（キャリアパスポート)，就労支援チェックリスト，ＧＪ（グッドジョブ）プロジェクトなどを通して実践する。事前・事後には生徒へのアンケートを実施する。アンケートは，先行研究（東京都自尊感情測定尺度：2008～2012）の自己評価シートを使用する。	(3)　事前アンケートの結果が平均点より低い生徒を対象に，事後アンケートの結果で自尊感情の向上と見られる回答が増加する。	(3)　事前アンケートで平均点より低い生徒８名の全ての生徒が，事後アンケートで自尊感情の向上と見られる回答が増加した。特に「自分の良さを実感した」「他の人の役に立っていることを実感した」と回答する生徒が多かった。	A		

	人権意識を育てる児童生徒指導の充実 【教育企画課】 (4)児童生徒の自尊感情を育み，学習活動への意欲が高まる教育活動を推進する。	(4)　各学部目標に応じた指導目標を設定し，実施･評価する。	(4)　指導目標を達成した教員の割合が９割以上となる。	(4)指導目標を達成した教員の割合は88％であった。一部目標を達成した教員を合わせると97％であった。	A	・一台端末の効果的な活用に加え，スマホの安全かつ有効な利用の仕方や犯罪などに巻き込まれないような予防的な指導について充実させてほしい。 ・教員と児童生徒が共に学ぶ教育活動によりICT 機器の活用の充実を図ってほしい。	・児童生徒の自尊感情や自己肯定感を育て高めるための教育方法の工夫や授業改善を行う。 ・ICT 機器の利便性と危険性双方を踏まえた教育活動の充実や外部講師による児童生徒・教員向けの研修会等を開催する。
	【特別活動・保健衛生課】 (5)児童生徒会活動の活性化を図り，児童生徒主体の学校行事の運営を進める。	(5)　児童生徒会活動がスムーズに実施できるように，小中高の教員が互いに連絡や相談の機会を意識的に増やし,活動内容の情報共有を図る。	(5)児童生徒会活動に関する意見交換の機会を年間３回以上設定する。	(5) 運動会・表現会・IKESHI やまびこコンサート・児童生徒会総会の行事実施にあたり，３回以上の話し合いの機会を設けることができた。	A		
	ＩＣＴを活用した学習活動の推進 【教育企画課】 (6)児童生徒の学習意欲や学習理解度を高めるため，ICT を活用した教育活動を推進する。	(6) 個々の児童生徒毎の ICT 機器を活用した学習状況・内容を把握するために，教員を対象にチェックシートへの記入を年間２回以上実施する。	(6)　全児童生徒数の70%以上が，ICT 機器を１回以上使用する。	(6)前後期に１回ずつ計２回活用状況についてのアンケートを実施できた。アンケート結果から100%の児童生徒がICT機器を１回以上使用することができた。	A		
２　教職員の専門性・資質・指導力の向上	**危機管理体制の整備，安全･安心な学校づくりの推進** 【支援・安全課】 (1)　学校危機管理における研修や訓練を通して，教職員の危機管理意識の向上を図る。	(1)　外部専門家と連携した研修や訓練を年間４回以上実施し，事後のアンケートは4件法で調査する。	(1)　教職員を対象とした事後アンケートにおいて，「危機管理意識の向上が図れたか」と回答する割合が８割以上となる。	(1) 外部専門家と連携した各研修や訓練後にアンケートを実施した。「危機管理意識の向上が図れた」と回答した割合が９割以上であった。	A	・コロナ禍の教育活動の制約や児童生徒の受けたストレスなどを考慮して，創意工夫した教育活動を展開してもらえてよかった。 ・生徒指導上の問題に関する指導の充実に加え，池田学園との個別のケース会議を開くなどの連携を図ってほしい。	・コロナ後の安全・安心な学校教育活動に向けた取組の充実を図る。 ・教育活動や教員研修の評価について，具体的な指標に基づく事前ー事後の評価方法を実施する。
	【特別活動・保健衛生課】 (2)　徹底した感染症予防体制を整え，児童生徒及び職員が安全に安心して過ごすことができる学校環境作りを行う。	(2)　感染予防と感染症発生時の対応方法について，知識のアップデートとスキルの向上をめざし教職員研修を実施する。	(2)　感染予防と感染症発生時の対応方法についての実践的な研修を年間２回実施する。	(2) 感染予防手段と COVID-19の簡易検査キットの使用方法について，全職員対象に２回実施することができた。	A		
	専門家等と連携した授業研究及び支援方法の改善 【支援・安全課】 (3)児童生徒の教育目標に応じた指導形態や指導方法の改善を図る。	(3)　外部専門家と連携し，年間２回以上のコンサルテーションを行う。教育目標や指導内容を設定し，実践する。	(3)　実践者によるコンサルテーションの事後評価で，90%以上が｢実践研究によって教育目標を達成した｣との回答を得る。	(3)　実践者によるコンサルテーションの事後評価にて，実践者全員から｢実践研究によって教育目標を達成した｣との回答を得ることができた。	A		
	【教育企画課】 (4)専門性・資質・指導力の向上を目的とし，教職員同士が協働して，互いに助け合い学び合う研修の充実を図る。	(4)-1　学部の垣根を越えたメンターチームでの研修を企画し，年間６回以上実施する。 (4)-2　授業力向上を目的とした研究協議を企画し，年間４回以上，運営･実施する。事後に4件法によるアンケートを実施する。 (4)-3　教職員の得意分野を生かし	(4)-1　メンターチームでの研修の参加者に事後評価を行い，90%以上から｢研修によって，専門性・資質・指導力が向上した｣との回答を得る。 (4)-2　授業者に研究協議後の評価を行い，90%以上から｢授業力向上に向けて大変有益であった｣との回答を得る。 (4)-3　研修会の参加者に受講アンケ	(4)-1　メンター研修の参加者の内，96%が｢研修によって，専門性・資質・指導力が向上した｣と回答した。 (4)-2　年間４回の研究授業を実施した。４人の授業者全員から｢授業力向上に向けて大変有益であった｣との回答を得られ，100%の達成率であった。 (4)-3　年間６回の研修会を実施し	A		

		た研修会を企画し，年間６回以上運営･実施する。事後に4件法によるアンケートを実施する。	ートを行い，90%以上から｢今後の指導に生かすことができる｣との回答を得る。	た。事後アンケートの結果，各研修会の参加者の内，90%以上の教職員から｢今後の指導に生かすことができる｣との回答を得た。			
３ 家庭・地域・関係機関との連携・協働をとおした学校づくり	**地域と連携した教育活動の推進** 【進路指導課】 (1)　高等部生徒を対象とした校外での実習を充実させる。	(1)　前後期就業体験期間，また期間以外でも，必要に応じた校外での実習を計画し，卒業後の進路選択に役立つ体験的な学習を実施する。	(1)　高等部２・３年生を対象に，１人平均２回以上，校外での実習先で体験を行う。	(1) ３年生11名に対し21回，２年生６名に対し15回，校外での実習を実施したことで一人平均２回以上の目標を達成した。実習先数は一般事業所４カ所と福祉事業所14カ所で，進路選択に係る貴重な体験をさせていただいた。	A	・きめ細かな進路指導の展開に感謝している。今後とも関係機関との連携を通じた個々の生徒に応じた進路移行支援の充実に努めてほしい。	・卒業生の進路情報に関する情報提供の充実を図る。
	【教育企画課】 (2)　地域と連携した PTA 活動の充実を図る。	(2)　近隣の福祉施設等と連携し，保護者の希望を反映した PTA 研修会や施設見学会を実施する。	(2)　研修について事後アンケートを行い，「地域福祉施設等の理解が深まった」との回答が８割以上とする。	(2) 施設見学会は箸蔵山荘を見学予定，PTA 研修会は池田学園課長より「障がい児福祉の現状について」講演予定であったが，新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響で中止となった。研修希望30名の保護者全員に資料を配付し，福祉施設と連携した活動ができた。	A		・保護者の教育活動や進路支援に関するニーズの把握や情報提供の充実を図ること。
	幼･小･中･高校等への相談・支援体制の充実 【支援・安全課】 (3) 地域や関係諸機関に本校の取り組みについて発信し，特別支援教育の理解や啓発の充実を図る。	(3)-1地域のセンター的機能の充実や本校教職員の専門性の向上を図るため，公開研修会と校内研修会を夏季と冬季に行う。 (3)-2地域の小・中・高等学校等の教職員を対象とした，実践的な指導法に関する研修会を行う。事後に4件法によるアンケートを実施する。	(3)-1冬季には公開研修会，夏季には校内研修会をそれぞれ１回以上行う。 (3)-２地域の学校**等**の教職員を対象とし，教材作りや実践的な指導法についての研修会を年１回以上行う。事後アンケートで8割以上の回答が「よかった」との結果を得る。	(3)-1　夏季に教材・教具に関する校内研修を１回行い，冬季に身体の動きに関する公開研修を１回行うことができた。 (3)-２　12月に，地域の学校**等**の教職員を対象とし，鴨島病院の作業療法士による｢不器用さのある子どもに対しての関わり方｣についての公開研修会を行った。事後アンケートにおいて,約9割の回答が｢よかった｣との結果であった。	A		・地域のニーズに応じたセンター的機能の発揮を行う。